



# 輝け！北っ子

令和元年6月17日発行

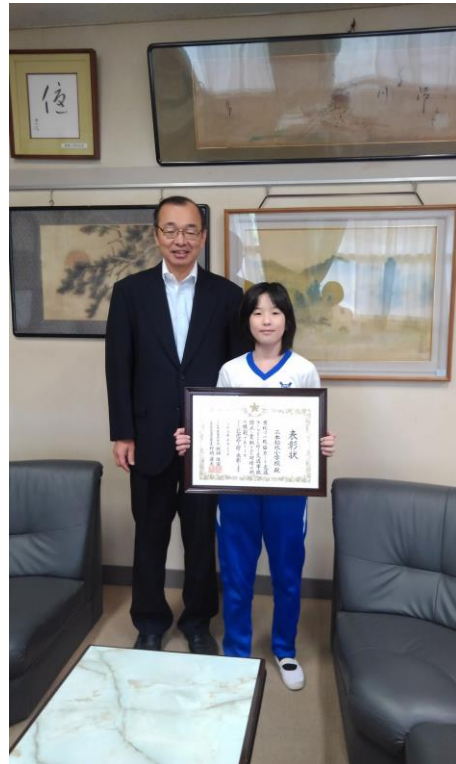
6月号

発行責任者 紺野 宗作

## 優良交通安全学校表彰を受けました！

このたび、二本松地区交通安全協会より「優良交通安全学校」の表彰を受けました。これは、昨年より「地域の安全は地域で守る」の理念のもと、北っ子見守り隊の活動を広げたことや日頃から地域の皆さんが子ども達を見守る活動を継続してやっていたからだと思います。本当にありがとうございます。

しかしながら、子どもの交通安全については、まだまだ課題が多いです。地域の方から、「横断歩道の渡り方が危ない」「車の横から急に子どもが飛び出してきて危なかった」などの情報が寄せられているからです。交通事故が起きてからでは遅いです。お子さんが交通ルールを守り安全な登下校をしているかどうか、各家庭でも確認してほしいと思います。



### 交通専門指導員・・・渡辺裕司さん

欠員となっていました郭内地区の交通専門指導員ですが、このたび渡辺裕司さんが委嘱され6月より、にほんまつ保育園の入口で活動を始めています。

渡辺さんは若宮在住ですが、なかなか後任者が決まらない中、「子ども達の安全確保のためなら」と引き受けてくださいました。本当に有り難いことです。

子ども達には、感謝の気持ちを込めて毎朝元気よくあいさつをしてほしいと思います。

# 親が子どもを管理している間は、自制心は身に付かない。

## ーゲーム等と上手く付き合うためにはー

先月、SNS・ネットのアンケート調査の結果をお知らせしましたが、多くの子どもたちがゲーム等を長時間行っている実態が浮かび上がりました。ゲーム等のやりすぎには、多くの親が困っているのではないかと思います。

ゲームを買い与える時に、ルールとセットで与える親も多いことでしょう。

親:「1日1時間よ！守れる？」

子:「うん、守れる」

親:「じゃ、買ってあげる。よい子にしないさいよ。」

子:「はい」

しかし、ここに、親がしがちな勘違いがあります。子どもは、ゲームの時間をコントロールできないから、親がルールを決めてゲームを買い与えようという考えです。親が最初からルールを設定してしまうと、子ども自身が、いつまで経っても自分自身をコントロールできません。子どもは自分では物事を考えず、ゲームからも支配されることになります。まずは、子ども自身に考えさせるべきことであり、時間はかかっても自分でゲームをどうするのかを考えさせることが大事です。ゲームは1日1時間というルールを親が与えたとしても、親がいなくてゲームの制限が取り払われるわけであり、「ゲームを自分でコントロールする」「ゲームの魅力に打ち克つ精神力」などは身につくはずありません。ゲームを他者に制限してもらうことと、ゲームを自分でコントロールすることは、子どもの気持ちの持ち方が全然違います。

こんな会話をしてほしいです。

- ・ 何時くらいまでゲームできそうか？
- ・ もしやりすぎたら、どうなるのか？
- ・ ゲームをやりたい気持ちはどれくらいか？
- ・ ゲームをやらないようにするにはどうしたらいいか？
- ・ ゲーム以上に大事なことは何かあるのか？

……などを家族団らんの中で、家族みんなで話し合うことがコツです。

ずっと他者から制限されていた子どもが、いきなり自分でコントロールすることはできません。根気強く、繰り返し話し合うことが大切です。ゲームをやりすぎた時の影響は、年齢が上がれば上がるほど大きくなると思います。年齢が上がると、高校受験、大学受験が出てきます。小学生の時よりも、受験期の方がゲームをやり過ぎた時のダメージはより大きくなると思います。しかし、小学校の頃から親がゲームを制限してしまうと、肝心な受験期や、勉強が本格化する大学の時などに、自制が効かないまま大人になっていきます。だから、親が子どもを管理している間は、ほぼ確実に、自制心は身に付きません。子どもが体験して、自分で考えることでしか、自制心は身に付きません。毎月、学校で実施している「メディアコントロール週間」には、話し合いを持てるようにしてほしいです。